

事業承継フォーラム

# 中小企業の円滑な事業承継へ 具体策探る



国内企業数の9割以上を占める中小企業は日本経済の基盤。中小企業が円滑に事業承継を進めることは雇用確保や地域経済活性化の観点からも重要。独立行政法人中小企業基盤整備機構と日本経済新聞社は10月28日、東京・大手町の日経ホールで「事業承継フォーラム2009～事業承継の『今』、そしてこれからのあり方～」を開催し、本格的に動き出した「中小企業経営承継円滑化法」の現状や今後の展望などについて議論した。後援は中小企業庁、日本商工会議所など。

## パネル討議

## 企業のさらなる発展をもたらす事業承継のあり方

# 法務・税務・金融など 専門家からアドバイス

パネル討論では中小企業の経営者が事業承継の体験を語り、そこから法務、税務、金融などの専門家が教訓やアドバイスを導き出した。

### 主婦から突然、社長に 株式分散と闘い抜く

東京都大田区にある精密ばね製造の小松はね工業は、2006年に中小企業庁「第1回元気なモノ作り中小企業30（1941年）に創業。現在は、2006年に中小企業



小松はね工業社長 小松節子氏

「経営計画書」を作成を通じて、小松節子氏は「経営権の承継が交錯する難しさ」を指摘し、事前討議することが重要と述べた。

「法定相続人は養母と節子氏のみ。株式構成は養父が50・49%、東京中小企業投資育成会社が24・9%で、その他は養母や節子氏など。養父の保有株は結局、すべて養母が相続した。

養母が3年後に死去して再び相続が発生。養母の自筆遺言を家庭裁判所で開封すると「全財産を養老院に寄付する」。節子氏は遺留分減殺請求を起こして2分の1を取り戻したが、残り

### 息子に「お前は社長だ」 後継者に決め育て上げる

愛知県新城市の本多プラスは、プラスチック・ブロー成形によりボトル・ケースを製造・販売する優良企業。台湾から引き揚げた父親が戦後に創業した筆のさや製

多克弘社長が「取締役経営企画室長」として迎えて経営を任せたと。後継者に着々と事業承継を進める本多社長について、専門家が具体的なアドバイスを



本多プラス社長 本多克弘氏

「今回のフォーラムの詳細を本日付の『日経産業新聞』に掲載



日本政策金融公庫 営業推進部副部長 満枝 忠雄氏



税理士法人タクトコンサルティング 代表社員 玉越 賢治氏



石井法律事務所 弁護士 柏原 智行氏

0社」に入選した優良企業の。しかし小松節子社長が「まさか相続が発生した。節子氏の配偶者は副社長だが養子縁組をしてもら



シンクタンク・ソフィアバンク 副代表 藤沢 久美氏(司会)



中小企業基盤整備機構 事業承継コーディネーター 小松 久男氏

株を持たずに2代目社長になっていった配偶者は、82年の離婚後も社長を務めていたが、社内の混乱の中で退社し、代わりに当時58・4%の筆頭株主になっていた節子氏が社長に祭り上げられた。小松社長は「それまで専業主婦だった」がセ



本多プラス社長 本多克弘氏

「今回のフォーラムの詳細を本日付の『日経産業新聞』に掲載